

カイタワラが我々を迎えてくれます。午後はオークランド博物館において、マオリ族の人々の生活やゼロ戦の展示などを見学しました。この日の夕食は和食を用意していただきましたが、翌日早朝の移動のため、あまりゆっくり出来なかったのが少し残念でした。

◇10月20日(木)

早朝空港へ移動し9時発の飛行機は、3時間半飛行して10時半にシドニーに着し昼食後の視察では、一般財団法人自治体国際化協会シドニー事務所の上坊所長より、地方自治制度と財政制度について説明をいただきました。この組織の本部は東京にあり、国際交流支援や姉妹都市、ジェットプログラムなどを支援している、全国の自治体からの共同出資の組織で、海外には7か所あるとのことでした。

ニュージールランドと同様に人口、GDPとも年々上昇しており、給与水準、人件費、物価も非常に高い(例…コンビニジュース400円、水300円など)。連邦政府、州政府、地方自治体ごとに業務分担がなされており、選挙に行かないと罰金が科され、国勢調査が一番大切であるとのこと。日本との関係では、安定的な経済関係と民主主義的な価値の共有で、アジア太平洋地域の平和と繁栄のためのパートナーであり、左側通行で右ハンドルが主体でありました。

◇10月21日(金)

午前は、オーストラリアの農業政策に

関連して、MLA豪州食肉生産者事業団を訪問。渡豪16年となる近藤美穂子マネージャーから、オーストラリアの家畜生産並びに食肉販売等について説明をいただきました。輸出先の規制によって、食肉の種類、部位、保存方法が違うとか、最近では中国への輸用量が増えてきているなど、食肉に関する様々な取り組みしながら、会員農家に情報提供しているとのことでした。

午後は昼食バーベキューも兼ねて、アングス牛生産農場を見学しました。70歳を超える女性オーナーが一人で、300haの農場で300頭のアングス牛を飼育している、農場管理等の各種作業は、業種ごとに近隣農家や業者に委託していて、オーナーはもっぱら4輪バギーを乗りこなし、固体管理や牧区移動を行っているとのこと。電気柵はソーラーではないが、大野岱放牧場と同じで、ニュージールランドのガラガー社製のものを使用していたので、非常に親近感がありました。広大な農場のために、あちこちに管理施設を設けておりましたが、使用していない時には希望によって、都会の家族連れ等に週末コテージとして開放しているとのことでした。専門誌に優良農家と紹介されたり、日本の市場調査にも来ていたとのこと、まさに農業者の鑑とも言えるべき方であると感心させられました。

◇10月22日(土)

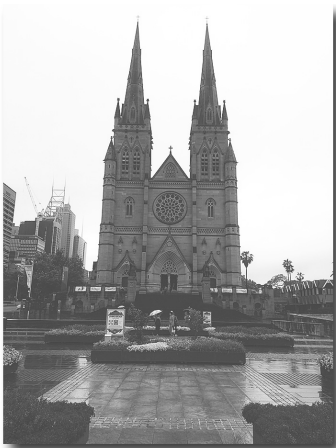
最終日は自主研修の日で、セント・メリーズ大聖堂やオペラハウス、シドニー・タワーでの観覧昼食、季節外れではありましたが、ボンダイビーチの見学、シド

ニーの海の玄関口であるロックス地区のバザーの様子を経て、夕方シドニー空港へと帰国の途につきました。



シドニー市内の中華料理屋での夕食

以上、お話を伺ったことや私が直接感じたことをそのまま羅列してしまいましたが、具体的な業務の進め方については、どうしても民間の力が必要であると感じましたし、循環型施策については、当町の今後の町づくりにもつながるものを感じました。機会を与えていただきましたことを心から感謝申し上げます。ありがとうございます。(完)



セント・メリーズ大聖堂

「教育長」コラム

第6回となりました「藤里町学校教育計画検討委員会」のこれまでの経過と結果をお知らせ致します。

小・中学校の再編について「諮問」されており、藤里町の子供達にどのような教育環境が適切なのかを委員の皆さんと共に「視察」をし、協議検討して参りました。さまざまな意見の中で：

ハード面(校舎)につきましては、幼・保・小・中を同じエリア内(敷地)とし、小中学校を隣接(併設)し「藤里町教育エリア」として「小中一貫校」を目指す。◇校舎間で連携しやすい環境をつくる。◇小中の独立性を保つ。など：

ソフト面(制度)につきましては校舎を隣接(併設)する中で「一貫校化」を目指す。◇異年齢交流(児童生徒の規範意識の向上)。◇小中教員の相互乗り入れ(教職員の児童生徒の理解や指導方法の改善意欲の高まり)など：

また、学童保育「あそぼクラブ」も小学校エリア内に入っております。参考：教育現場でもIT導入が不可欠になり「ICT機器」では「電子黒板・タブレットPC・プロジェクト」などが授業で使われ、「教材・教育」では、「デジタル教科書、デジタル教材」などが用いられるようになりました。「塾」もこれらを使った、未来「塾」の時代に入っています。(浅利)